

< 2年めの到達点 >

県下4番目のフードバンクとして2017年4月に発足したフードバンクくるめは、自前の城島倉庫&事務所（約500m²）を拠点にして、組織構築の初年度に比べて、財政以外のほとんど全ての面で活動規模を倍化ないし数倍に拡大してきた。

2018年度は、企業・団体19、個人17名から寄贈され、食品の総量は14.3トン（前年度は3トン。内訳は玄米・精米1,268kg・野菜1,939kg [ジャガイモ900kg・白菜660kg・タマネギ100kg他] ・果物593kg [梨・柿・桃・プラム・キウイ他] ・冷凍食品1,070kg [アイスクレーキ・アイスクリーム・冷凍おせち・冷凍杣つき餅他] ・水&飲料5,135kg、災害食289kg、調味料・菓子・レトルト食品等)、と総取扱量はほぼ5倍化した。あるドラッグストア、農民連の「みのう農民組合」、雑穀のベストアメニティ、氷菓の丸永製菓からは継続的な食品寄贈がある。加えて久留米市などの行政からの災害食・水の提供とフードバンク間連携などで新たな民間会社からの大量の食品寄贈があった。

2018年度の助成金で多数の保冷箱と保冷剤を確保した。加えて中古プレハブ冷凍庫と業務用冷蔵庫の購入で大量の冷凍冷蔵食品を一時保管・配布できるようになり、これで一応の倉庫機材が揃った。この間、会員数も倍化した。

食品支援先団体は、口コミや紹介で徐々に増え、30団体（前年度は18団体。子ども食堂9・地域食堂5・無料塾1・児童福祉施設1・障がい者福祉施設5・社会福祉協議会3・路上生活者支援団体1など）になった。各々開催頻度が異なるものの、対象人数の総計では子ども約1,000名、大人約1,000名を超えている。地域別では、久留米市に25団体、周辺の小郡市・広川町・鳥栖市・佐賀市・筑後市・柳川市・みやま市に各1団体と広がりを見せている。このため、整理棚は空きが多い。

また、個別の生活困窮世帯への支援では、自身の声を上げられない恥の文化と、まかり通る自己責任論、それに個人情報保護法の壁が我々の前に立ちだかっているが、幾つかのルートで実現している。一つは、地域の生活困窮世帯をよく把握している宮ノ陣子ども食堂と青峰の地域食堂の運営者を經由して、20世帯弱に間接的な支援を継続している。第2は、西国分と合川校区では、主任児童委員を經由して相対的貧困率が50%を超える母子世帯15軒へ月1回以上、新鮮な果物・アイスクリーム・冷凍おせちを含む食品支援を継続している。第3は生活自立支援センター経由で、筑後市・柳川市・みやま市・佐賀市で実現している。さらに、教会と路上生活者支援団体を經由するルートもできた。民間のセーフティネットの一つとして、フードバンクの費用対効果は極めて優れていると思う。

福岡県内と佐賀県のフードバンク間連携で、多量の玄米や冷凍おせちの寄贈を受けた。逆に、我々も7月豪雨の被災スーパーマーケットや最近は大流通会社からの大量寄贈を周辺フードバンクや支援団体に斡旋した。またこの間、隣接するフードバンクさかの設立（2019.3.21）支援を行い、フードバンク大牟田へも我々には余剰食品の融通・仲介を行ってきた。浦川は4月1日設立された一般社団法人福岡県フードバンク協議会の理事を務めることになった。

新たな取り組みとして、生活体験にも乏しい子ども達や大人を対象に、みのう農民組合と協働して農業体験会を行った。昨秋2回の収穫体験会で子ども9名・大人14名の参加があった。今春、白菜畑での収穫には10名の参加があった。この取り組みは更なる拡大が望まれる。この間3団体の視察を受け入れ、浦川は3つの講演会の講師要請を引き受けた。

< 見えてきた課題 >

まず、全国どこのフードバンクにも共通する財政基盤の弱さである。民間に加え行政からも手厚い財政や政策上の支援がある欧米と比して、寄付文化が乏しい日本では、年会費・寄付は極めて限定的である。活動拠点の城島倉庫&事務所の維持・運営費として、電気料・通信費・損害保険に加え、固定資産税を毎年11万円弱支払っており、これは正会員の年会費21人分にあたり、我々には大きな負担になっている。先進国では常識の新たな福祉のしくみに、相対的貧困率が米国に次いで多い『貧困国』日本の政治と行政がついてきていない。

次にボランティアの確保であるが、定例活動日に参加してくれるボランティアは次第に増えてはいるが、週日の活動に参加できる方は限られており、依然として数名の人に活動が集中し休みが取れないでいる。専念してくれるボランティアの確保が依然として課題である。

食品支援先が確実に増え続け、今年逆累進性の高い消費税が10%に上がれば、更に生活困窮世帯が増えることが懸念され、現在の企業・団体からの寄贈では量と品目数で足っていない。新規の食品寄贈先を開拓する必要性にせまられている。特に、肉・卵・鮮魚・生鮮野菜など衛生管理が厳しい食品の取扱いが求められる。

2018 (平成30) 年度 活動決算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

任意団体「フードバンクくるめ」

(単位:円)

科目	当初予算額A	決算額B	差額(A-B)	備考
I 経常収益				
1.受取会費				
正会員 (50名)	200,000	210,000	-10,000	5,000×42、内3名次期会費
賛助会員 (50口)	100,000	4,000	96,000	2,000×2口
賛助団体 (2団体)	40,000	20,000	20,000	1団体
2.受取寄付金				
受取寄付金 (個人分)	200,000	68,295	131,705	カンパ他
受取寄付金 (団体)	300,000	217,000	83,000	
3.受取助成金・補助金等				
受取民間助成金 (久留米市社協)	200,000	200,000	0	はーとふる助成金
受取公的助成金 (久留米市補助金)	600,000	579,000	21,000	キラリ輝く市民活動助成金
4.事業収益				
フードバンク事業収益	0	0	0	
5.その他収益				
受取利息	0	2	-2	3/11に2円
雑収益	0	26,735	-26,735	講演会講師料(3)
経常収益計	1,640,000	1,325,032	314,968	
前期繰越額		105,031		
収入の部合計		1,430,063		
II 経常費用				
1.事業費				
(1) 人件費				
給料手当	0	0	0	
諸謝金	10,000	0	10,000	
人件費計	10,000	0	10,000	
(2) その他経費				
賃借料	0	0	0	
旅費交通費	50,000	4,740	45,260	代表の出張2回分
会議費	10,000	0	10,000	
車両費 (ガソリン・高速料・駐車料)	100,000	121,600	-21,600	ガソリン代118,740、高速料2,660、駐車料200
備品購入費	400,000	359,707	40,293	プレバプ式冷蔵庫、業務用冷蔵庫、プリンター
保冷箱・保冷剤	0	236,220	-236,220	
委託料	10,000	0	10,000	
その他経費計	570,000	722,267	-152,267	
事業費計	580,000	722,267	-142,267	
2.管理費				
(1) 人件費				
給料手当	0	0	0	
人件費計	0	0	0	
(2) その他経費				
印刷製本費	20,000	9,170	10,830	新リーフレット2,500枚@プリントバック
水光熱費 (電気代、灯油代)	160,000	175,496	-15,496	電気代173,695、灯油代1,801
諸謝金	10,000	0	10,000	
地代家賃	0	0	0	
雑費・消耗品費	150,000	69,215	80,785	
通信運搬費 (電話ネット代、郵送・切手代)	100,000	85,489	14,511	電話代73,061、ドメイン1,598、郵送費10,830
営繕費	150,000	9,926	140,074	精米機修理8,640、ビニールパイプ1,286
固定資産税 (市税)	106,076	106,076	0	
保険料 (ボランティア保険)	65,000	3,500	1,900	2019年度10名@350円
保険料 (火災・災害保険)	0	59,600	-59,600	台風被害対策
キラリ補助金返済分	0	9,000	-9,000	
会議費	0	0	0	
その他経費計	761,076	527,472	233,604	
管理費計	761,076	527,472	233,604	
経常費用計	1,341,076	1,249,739	91,337	事業費計+管理費計
当期経常費増減額	0		0	
III 経常外収益				
1.固定資産売却収益				
	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
IV 経常外費用				
1.過年度損益修正損				
	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
経理区分振替額	0	0	0	
当期正味財産増減額	0	75,293	-75,293	
前期繰越正味財産額		105,031		
次期繰越正味財産額		180,324		期末銀行残高180,324円

2019 年度 フードバンクくるめ事業計画書（案）

2019.4.27

<概要>

発足3年目の今年度は、4月から多数の食品が先行値上げされ、10月の消費税10%で生活困窮家庭での更なる食費削減が強く懸念される。より多くの支援先団体と困窮世帯により多く配布できるよう、資金面を含めた支援体制の強化拡大、食品提供企業とボランティアを新規開拓し、活動の輪を更に広げる。

<分野別事業計画>

カテゴリー	具体的活動等	必要な人数・資金等
会員・募金	正会員70名・賛助会員10口・複数の団体会員獲得をめざす。	
食品寄贈企業・団体・個人	食品関連企業・団体への戸別訪問強化 フードバンク間連携強化、フードドライブ拡大	
助成金・補助金	久留米市社会福祉協議会(社協)助成金 久留米市キラリ輝く市民活動助成金	社協はーとふる助成金20万円決定済み 市の助成金の今年度申請60万円予定
個別生活困窮世帯への支援	子ども食堂運営者や校区の児童委員・民生委員を通じての支援の拡大	
定期活動日を週3日へ	要望調査をして、週末の土曜もしくは日曜日午後に城島倉庫&事務所を開け、支援先団体への便宜を図る。	週末参加のボランティアの確保
見えるフードバンクとフードドライブ活動	スタッフ・ジャンパー／ベスト、幟旗とポール・注水台を揃え、外から見える活動にする。	約30万円を補助金で購入予定
農業体験	年数回、みのう農民組合との連携で、より多くの子も食堂参加者などに農業体験を提供する。	事前連絡で社協のマイクロバスの確保 当日支援スタッフの確保
情報発信と共有	ホームページの充実 メーリングリストと支援者間でのLINEの活用	
食品の安全管理	肉・卵・鮮魚・生鮮食品の取扱い拡大 賞味期限の徹底、トレーサビリティの確保 倉庫の清掃と維持、冷凍・冷蔵庫の温度管理の徹底	
施設環境の改善	事務所にエアコン導入 トイレの新設は次年度以降に	200V動力線用エアコン30万円弱 下水道負担金+トイレ新設（約100万円）
ボランティアの確保とボランティア団体との連携強化	シニアはもちろん、特に学生・若い世代・女性のボランティアの参加を募る。ボラ連(久留米市ボランティア連絡協議会)を通じての連携強化	浦川が久留米市ボランティア協議会理事を務める。
NPOもしくは一般社団法人化	今年度も断念し、不動産取得(県)税免除の条例化への働きかけ、固定資産税の減免への働きかけ	県FB協議会を通じて県議会、市議会への働きかけ
災害協定	大きな倉庫を活用し、久留米市と災害食備蓄を含む災害協定を結ぶ。	2018年1月12日に災害協定締結の申出済み。
隣接フードバンクとの連携	フードバンクさがとフードバンク大牟田との食品融通・情報共有体制を構築する。	
福岡県内フードバンク間連携	4月1日に発足した(社)福岡県フードバンク協議会の構成メンバーとして県内の食品の融通・情報共有などの連携を強化推進する。	浦川は理事を務める。

2019年度 活動予算書(案)

2020年3月31日まで

任意団体「フードバンクくるめ」

(単位:円)

科目	当期分A	前期分B	増減(A-B)	備考
I 経常収益				
1.受取会費				
正会員(70名)	350,000	200,000	150,000	
賛助会員(10口)	20,000	100,000	-80,000	
賛助団体(2団体)	40,000	40,000	0	
2.受取寄付金				
受取寄付金(個人)	100,000	200,000	0	
受取寄付金(団体)	100,000	300,000	-200,000	
3.受取助成金・補助金等				
受取民間助成金	200,000	200,000	0	社会福祉協議会---農業体験会経費
受取公的助成金	600,000	600,000	0	久留米市補助金申請予定
4.事業収益				
フードバンク事業収益	0	0	0	
5.その他収益				
受取利息	0	0	0	
雑収益	20,000	10,000	10,000	講演会講師料
経常収益計	1,430,000	1,650,000	-120,000	
II 経常費用				
1.事業費				
(1) 人件費				
給料手当	0	0	0	
諸謝金	10,000	10,000	0	
人件費計	10,000	10,000	0	
(2) その他経費				
賃借料	0	0	0	
旅費交通費	20,000	50,000	-30,000	フードバンク関連会合出席
会議費	10,000	10,000	0	
車両費(ガソリン・高速料)	150,000	100,000	50,000	1km20円、補助金を得た場合支給
備品購入費	300,000	400,000	-100,000	事務所用3相200Vエアコン
委託料	10,000	10,000	0	
その他経費計	490,000	570,000	-80,000	
事業費計	500,000	580,000	-80,000	
2.管理費				
(1) 人件費				
給料手当	0	0	0	
人件費計	0	0	0	
(2) その他経費				
印刷製本費	10,000	20,000	-10,000	
水光熱費	220,000	160,000	60,000	
諸謝金	0	10,000	-10,000	
地代家賃	0	0	0	
雑費・消耗品費	80,000	150,000	-70,000	
通信運搬費	100,000	100,000	0	電話代、ネット代、ドメイン料、郵送費
営繕費	100,000	150,000	-50,000	
固定資産税	106,076	106,076	0	内訳(土地68,701円、建物37,375円)
保険料(建物損害、ボランティア)	70,000	65,000	5,000	火災・損害保険59,600円
会議費	0	0	0	事業費の会議費に集約
予備費	150,000	0	150,000	
その他経費計	836,076	761,076	75,000	
管理費計	836,076	761,076	75,000	
経常費用計	1,336,076	1,341,076	-5,000	
当期経常費増減額	0			
III 経常外収益				
1.固定資産売却収益	0			
経常外収益計	0			
IV 経常外費用				
1.過年度損益修正損	0			
経常外費用計	0			
経理区分振替額	0			
当期正味財産増減額	0			
前期繰越正味財産額	180,324			
次期繰越正味財産額				